

# 「羽包み(はくくみ)」

第七号 平成23年7月15日発行

自立援助ホーム「湘南つばさの家」

〒253-0022 神奈川県茅ヶ崎市松浪 1-12-17

TEL・FAX 0467-58-6260 [shonan-tsubasa@marble.ocn.ne.jp](mailto:shonan-tsubasa@marble.ocn.ne.jp)

〔郵便局での振込みは〕 ゆうちょ銀行 振替口座 00200-5-81277 自立援助ホーム 湘南つばさの家

〔銀行からの振込みは〕 ゆうちょ銀行 店名：029 当座 0081277 自立援助ホーム 湘南つばさの家

## 生き方を問う

ホーム長 前川 礼彦

いつも多大なご支援、心より御礼申し上げます。

今年は東日本大震災が起こり、日本全体が少なからず被災や不安を抱えました。現在も復興に向け、出来る支援や行動を全国各地で力を合わせて取り組んでおられています。当ホームのことや少年たちの仕事などご心配、ご支援して下さった方々には改めて御礼申し上げます。

「私に何が出来るか」。この問いは多くの方が胸のうちに思いを巡らせたかもしれません。それは関心を抱くことから具体的な支援活動に至るまで様々ですが、巡らせた思いや行動が一過性でなく、細くとも継続されるものであることを望みたいものです。

世の中で大きなことが起きると、その事柄に多くの関心が向けられ、ときには生活にも影響が出るが多々あります。しかし従来よりあった様々な問題は陰に隠れているに過ぎず、ホームで出会う少年たちにおいては変わらず困難を抱えながら生きていこうとしています。

日常には苦楽がありながら、明日が訪れることをどこかで当たり前のように感じていましたが、ときには一瞬で崩れてしまい、終わりが訪れることが現実としてあることを実感しております。

人生に例えたとき、限りある年月の中で、「自分はこの人生をどのように生きていくのか」というテーマをどこかの時期で見つめ直す必要があるかもしれません。それはどの様な仕事内容や、やりたい事柄というより、生きる姿勢についてです。人に対する姿勢であり、物事に対する心の捉え方であり、自身がどの様なことを大切に生きていくのかが問われてきます。

人が違えば仕事や生活は千差万別。それぞれの道は違っても直面する事柄の意味は共通することも少なくありません。私は困難を抱えた少年たちと共に暮らすことを選択しました。それは逃れようのない毎日の積み重ねで言いようのない重圧が訪れることもあります。

しかし、何かにつまづいたとき、自分を見失ったとき、仮に誰の評価もない場面があったとしても、この限りある人生の中で、「自分の生き方とは何か」というテーマを心の支えに歩んでいければ、それは幸いな生き方なのではないでしょうか。

今後も湘南つばさの家のご支援をどうか宜しくお願い申し上げます。